

令和5年度 第1回石川県職業能力開発審議会

日時：令和5年8月23日（水）10：00～

場所：石川県庁行政庁舎11階1105会議室

審議事項

- ・産業技術専門校の今後について

【土岐課長】

（産業技術専門校の今後について説明）

- ・今回の審議会の趣旨は、老朽化する産技校を今後どうしていくかという議論。
- ・資料2ページ目は県内の職業訓練施設の場所等々を図示しており、金沢市にポリテクセンター石川と金沢産業技術専門校が隣接している。ポリテクセンター石川は離職者を対象とした施設であり、金沢産技校は新卒者を主な対象として、本県の若年者施設の中心的施設となっている。野々市市に国設置、県運営の障害者向けの職業能力開発校がある。小松市には小松産業技術専門校が離職者、在職者を対象とした施設としており、南加賀地域の在職者訓練施設としての特色がある。北には能登町に能登産業技術専門校があり、離職者・在職者を対象とした施設としてあり、奥能登地域の離職者訓練施設となっている。穴水町には国のポリテクカレッジがあり、若年高度技能者の育成施設となっている。七尾市には七尾産業技術専門校があり、新卒者、離職者、在職者を対象に自動車整備科を中心とした施設ということで分布している。
- ・3ページ目は、2ページ目の資料をマトリックスのような形にまとめた資料で、右軸に各校、縦軸に対象者の属性、黄色で新卒者、オレンジで離職者、グリーンで在職者というような形でまとめている。赤い太字でくくっている部分がそれぞれの施設の中心的な機能というようなことになっている。新卒者訓練が金沢校、七尾校、ポリテク石川で、高校卒業後、進学、就職しない若者の受皿としてなっており、産業界のニーズは非常に高く就職率はほぼ100%となっている。離職者訓練について、施設内訓練ではものづくり分野の訓練を中心に実施しており、OAや介護、観光等といった分野については民間に委託している。委託訓練は民間の訓練委託業者に委託して実施している訓練。在職者訓練については、小松校で在職者訓練センターを設けており、基礎から中堅レベルの内容

を実施している。ほかの3校については主に企業の初任者研修等、基礎的な内容を実施している状況。

- ・ 5 ページ目からは、各校のそれぞれの現状をまとめており順に説明する。
まず、金沢校は、ポリテクセンター石川に隣接箇所しており、公共交通機関でのアクセスが非常に容易という場所に位置している。ただし、築後58年経過しており、さびや鉄骨の腐食があるなど建物の老朽化が激しい。メカトロニクス科は平成10年に整備しているが、それ以外の建物は全部要耐震診断という状況。建物老朽化の様子を見ていただければ、外壁の破損があったり、一番左下とか窓枠の腐食があったり、屋根の雨漏り跡があったり、鉄製窓の劣化があったり、渡り廊下鉄骨の腐食があったり等々、特にやっぱり老朽化が激しい。
- ・ 6 ページ目は入校状況を載せている。金沢校は主に新卒者を対象とした施設として、産業界のニーズに応じた若年ものづくり人材を育成するための訓練を実施しており、入校率は一定水準を維持している。入校状況は5年置きの推移を記載しているが、平成24年と平成29年と令和4年で、合計すると入校率は77.1%、60%、45.7%と、一定水準を維持とは申したが、右肩下がりの状況にはなっている。少子化や人口減少という側面のほか、雇用情勢が良いと人手不足となるので、訓練校に来るよりは会社のほうに就職するような傾向となり、令和4年はそういった傾向が強く出ているんだろうというふうに考えている。下の写真はそれぞれの学科ごとの訓練風景、メカトロニクス科の2つの写真はNC旋盤とかマシニングセンタなどの自動工作機械の制御技術を習得しているという光景を載せている。
- ・ 7 ページ目は就職状況を載せている。就職率はほぼ100%と高く、企業からの採用ニーズが高い。就職先では、メカトロニクス科は機械・金属製造の地元大手から中小企業まで幅広く就職している。電気工事科も、第2種電気工事士の資格を活かして中小規模の電気工事関係に就職している。総合建築科についても、現場施工を請け負う中小規模の建築企業が中心となっているほか、内装、防水、建具、家具等々、大工以外の分野にも一定数就職しているという状況。
- ・ 8 ページ目は入校元の傾向を載せている。普通高校からの入校が全体の70%と最も多く、普通高校からのものづくり分野の技能者として就職を目指す若者の受皿となっている。
- ・ 9 ページ目は訓練科の主な変遷を載せている。今回、時代に合わせた訓練ニーズに関して、どういった訓練をすべきかというご意見もいただきたいという観点から作成してい

る。現在は、総合建築科と電気工事科とメカトロニクス科とワークサポート科が残っており、家具・木工系や板金系の塗装やタイル張り、デザイン系、配管を訓練科としていたことがあったという状況。

- ・10ページ目は七尾校の現状を載せている。七尾校は、中心部から約2キロの距離に位置しており、築後60年を経過して建物が老朽化している。耐震性ありが3施設、要耐震診断が4施設、金沢校よりは割合としてはましというような状況かと思う。ただし、外壁のさびがあったり、天井雨漏り跡があったり、修繕は必要な状況。
- ・11ページ目は入校状況を掲載している。入校率は、生産設備保全科が低迷している状況で、全体的には最新値で31.4%の入校状況。自動車整備科に関しては、100%、76.7%、50%と一定水準の入校状況は維持している。
- ・12ページ目は入校元の状況を載せている。普通高校からの入校が最も高く63%と普通高校からのものづくり技能者としての受皿になっている。
- ・13ページ目は就職状況を載せている。自動車整備科、生産設備保全科に関しては企業からの採用ニーズが高く、就職率は100%ということになっている。主な就職先はご覧のとおりで、トヨタ系なども入っている。
- ・15ページ目からは能登校の状況を載せている。建物は築後56年で、老朽化が目立つ。耐震が必要施設のな度合いは七尾と同じような状況。
- ・16ページ目は入校状況を載せている。離職者を対象に、造園科など、地域ニーズに応じた訓練を実施しており、入校率は合計50.8%ではあるが、次のページ、17ページ目をご覧いただくと、就職率がほかの七尾校や金沢校に比べると少し低くなっているという状況。
- ・19ページ目からは小松校の状況を載せている。小松校は平成15年に整備しているので、全て耐震性はあるという状況。
- ・20ページ目は入校状況を載せている。離職者を対象に、コマツを中心としたものづくり企業のほか、南加賀地域のニーズに応じた訓練を実施している。入校率は訓練科によりばらつきがあるといった状況で、合計は最新の入校率で37.1%になっている。
- ・21ページ目は就職率を載せている。自動車整備科、CADオペレーション科は企業のニーズが高くて100%となっており、全体としても91.9%と高水準を維持している。
- ・23ページ目は企業のニーズ等ということで、企業の方々へのヒアリングの内容を載せている。企業の方が産技校の卒業生に求めるニーズということで、採用時に求めるもの、産技校への意見、採用の情勢や産技校生の担っている仕事、あるいは担ってほしい仕事

をそれぞれ聞いてまとめている。採用時に求めるものに関しては、基礎的な技術や知識を身につけてから来てほしい、技術は会社に入ってからでもよい、やる気や真面目さ、コミュニケーション能力を重視しているという意見もあったし、人手不足なので来てくれるなら採用したい、業界に人材を送り込んでほしいといった意見もあった。産技校への意見や採用の情勢等に関しては、技能に特化して訓練をする産技校は貴重であって資格取得がありがたい、一般募集や就職フェアなどではなかなか来てくれないが、産技校は業種、職種が絞られているので採用する際の効率がよい、産技校生は真面目で離職リスクが少ないという声があった。産技校生への担っている仕事については、特に製造は、主にNC旋盤やマシンングセンタ等、現場のオペレーターを経験した後、仕入れや発注といった生産管理の業務を担うケースがある。電気工事については、配管やケーブルラックの施工など、現場作業を経て、最終的には施工管理者になることを期待している。建築は大工のほか、現場の職人として従事、現場のリーダーになることを期待しているといったような意見があった。

・24ページ目は本日ご議論いただきたい点ということで最後に載せている。1点目は、地域のニーズ等を踏まえた特色あるカリキュラムを提供し、ものづくり人材を育成している4校の必要性の是非について、そもそも4校必要なのかどうかという点。2点目は、老朽化している金沢校、七尾校、能登校の施設整備の是非について、特に金沢校は老朽化の進行が顕著。最後に、時代のニーズに応じた訓練科、カリキュラムの見直しについて。以上の3点をご議論したいと思っている。4校は基本的には我々としては必要だとは思っており、特に金沢校が老朽化が進行しているので金沢校から順に整備をしたうえ、他校も整備に関しては必要だと考えているというのが事務局としての本音であるが、その上で皆様方のご意見を賜ればと思っている。

(質疑応答)

【廣田委員】

・入校率が下がっていることには、建物の老朽化も関連しているのか。

【土岐課長】

・入校状況は少子化等で人の数が減少していることや人手不足で企業の就職に流れていくことが多いことで入校状況が下がっているのではないかと思っている。入校率が設備の老

朽化と直接関連するかは分からないが、あまりに老朽化した訓練校に行きたくないといった心境になることはあるのかもしれないと思う。

【武田委員】

- ・先ほどの知事の発言で現場を見てこられたとあったが、特に何が問題だったのか。
- ・建物の老朽化に関して、公共施設総合管理計画との関係はどうなっているか。
- ・採用企業以外からの新たな訓練ニーズというものを酌み取る必要があると思うが、採用企業以外からの聞き取りというのはされているのか。
- ・訓練内容について他県の動向を調査してはどうか。例えば新たな産業構造の変化や産業界のニーズにどのように対応して訓練内容を見直しているのか等。

【土岐課長】

- ・知事の内心としては、訓練生が一生懸命訓練をしている中で、設備として暑い中での訓練環境を整備してあげてはどうかとうことだと認識している。それと、施設が老朽化している現状について、方向性をつけてしっかりやれることはやっていく必要があるという点も問題視していたと認識している。

【光永部長】

- ・公共施設総合管理計画は作っている。建替えや大規模改修など、具体的にどのように施設整備を行っていくのかについては、委員の皆様からご意見をいただきながら決めていきたい。

【土岐課長】

- ・採用企業以外からのニーズ調査については、必要だと思っている。
- ・他県の動向については、全国的に職業能力開発校が老朽化しているような事例もあるので、この先議論を詰めていく過程でお示しできるものに関してはお示したい。

【武田委員】

- ・他県の動向調査の際に重要なこととしては、ICT化に対応した訓練としてはどんなものがつくられているかということに注目して調査されるとよいのではないかと思

う。

【坂野委員】

- ・ 温暖化から沸騰と言われるような猛暑続いている中で、クーラーについてはニーズとして必要だと思う。雨漏りについても整備するべきならしたほうがよい。
- ・ 外国人労働者については増えているので、外国人労働者に対するニーズに対応するような訓練なども必要だろうと思う。
- ・ 4校の必要性については、隣県の富山、福井は何校あるのか状況を教えてほしい。

【廣田委員】

- ・ 冷暖房に関して、夫が中小の鉄工所で働いているのでわかるが、空調服の支給や冬季には熱線が入った暖房チョッキのようなものの支給はあるのか。

【事務局（斎藤校長）】

- ・ 空調について、学科の勉強、座学の教室は空調があるが、実習棟についてはメカトロニクス科、電気工事科、総合建築科とも空調がない状況。非常に私ども熱中症に関しまして憂慮している状況。熱中症計を設置しているが、いつもピーピー危険音が鳴っているという悲しい状況になっているのが現状。
- ・ どのようなユニホームを支給されているかということについては、産業技術専門校は基本的に授業料はお金かかっておらず、ユニホームとか教科書代等は訓練生の負担となっている。ただ、訓練生は必ずしも生活が豊かな方が多いわけではないので、できるだけ低廉なユニホームなりで対応していくということでやらせていただいている。近年、鉄工所なり、また警備会社等では空調が入ったユニホームとか提供されており、その必要性はあるとは認識しているが、そこまで今提供できない、購入いただけないというのが現状になっている。。
- ・ 他県の状況について、富山県は1校になっている。ただし、本校が富山市にあり、東と西のほうにそれぞれ分校がある状況。福井県は、福井市と敦賀にそれぞれ訓練校があるという状況。

【廣田委員】

- ・先ほど言いました身内の話ですけど、会社員30名程度の本当に小さい建設業の民間会社であったとしても、命を守るという観点で制服等の支給が特に昨今しっかり会社では配慮がある。公立で運営されている機関で、命の危険が迫るような就学環境はあってはならないと思う。労働者側として、意見を申し上げさせていただきたいが、このような労働環境を放置するというのは、切に、早急に、今の冷暖房に関してもですが、例えば暑いとき、熱中症の危険性を本人なり周りが感じたときは、冷房のある部屋に少し涼みに行けるとか、そういう命を守るといった環境で学習といたしますかこういうことに従事できるようにお願いしたいと思う。何かあってからではもう責任を取るどころではありませんので。加えて耐震工事についても、能登で5月5日に地震があったが、こちらも命を守るという最低限度の環境保障ということで、石川県が携わっているからには、早急に老朽化への対応もお願いしたい。

【土岐課長】

- ・もちろん議論されてなかったわけではないが、本当にそろそろだろうということでこの議論を始めさせていただいている。現状において思いは同じだと思っている。

【山下委員】

- ・七尾校について、生産設備保全科で産業用ロボットの制御技術を習得するところが、令和4年度は入校率ゼロ%ということで、能登のニーズというか人口減少をも含めた要因があるのか。
- ・製造業含めて人材不足という観点で自動化というのは進められているところだが、採用時に求める企業ニーズについてもこの基礎的な知識が10年、20年前と変わってきていると思う。ロボットの制御のプログラミングなどの基礎知識の習得を産技校で進めていく必要がある。
- ・自動車の分野についても同じように、100年に一度の大改革とういことでエンジンからEVに国によっては移り変わりつつある。自動運転や補助ブレーキなどの先進的な部分も含めてこのカリキュラムを考えて検討していく必要はあると思う。

【事務局（吉村主幹）】

- ・生産設備保全科の入校率は非常に低い状況になっており、入校率等を踏まえた、企業

の聞き取りや、各校からの意見聴取などをするなかでお示ししたいと思う。

【竹田委員】

- ・ 訓練環境については、当社においても補助金などを活用させていただきながら、工場は冷暖房を設置したり、外回りする社員には空調服を支給している。安全作業は当然に何としても確保していくべきところだが、難しいのが安全と快適、快適と安全というバランスがなかなか難しい部分も正直あるのが実情。私もいろいろな会社回っているが、空調が効いた工場のあるお客さん、取引先がどれくらいあるのだろうといっても、正直、現実としては恐らく半数も、ものづくり企業であれば多分半数いってないんじゃないかと思う。ただ、そのときは空調服を着るなど安全対策という部分は当然やっているが、ものづくり企業とすれば現実問題としてはそういったところで仕事をしているというのが現実的なところかなと思う。
- ・ 時代のニーズに応じた訓練科について、企業との連携は現状しているのか。

【土岐課長】

- ・ 訓練科については企業の話聞いて、その意見をまとめて、このような場で決めていくということをしている。小松校の在職者訓練では、コマツとしっかり連携して人材育成をしている。

【事務局（吉村主幹）】

- ・ 就職した採用企業を中心に指導員が日々聞き取りを行い、ニーズの合ったカリキュラムにマイナーチェンジをしたり、企業実習も訓練に取り入れるなど実態のニーズとなるべくすり合わせを行いながら、都度都度、変更している状況。

【日根野委員】

- ・ 私どもも製造業なので空調服もしっかりというのは当然のことだが、そういうことが100%できてないということが現実。その中で、職業訓練に来られた方がきれいじゃないとできませんよ、涼しくないとできませんというようなことで、その後の厳しい現実の中に入っていくときに本当にそれでいいのかなと感じた。だからしなくてもいいということではないので、民間ももちろんそういうことをやっていくということがこ

れからの命題としてあるとは思いますが、あまりに乖離し過ぎるということはどういうことなのかなというふうにも思った。

- ・産技校で勉強された方が、その勉強を生かせる職場へ皆さん行っているのか。そこが結びついているのかどうかということが一番大事だと思っている。そのためには、何をすべきかを考えることが大事。

【土岐課長】

- ・企業の話を知ると、産業技術専門校を卒業して企業に来るような方は、すぐ仕事に従事してもらうに当たって必要な資格をかなり取ってきてくれるのですごく助かるということで、企業が必要な人材をある程度しっかり輩出できているサイクルというのはかなりできてるんじゃないかと思っている。

【橋本委員】

- ・老朽化している3つの施設整備の是非について、施設を新しくするためには、特に財源も県民の理解も必要。全国の中で成功例はあるのか。施設を新しくするのであれば、今のまま施設整備してもなかなか理解を得られることは難しいと思うので、新たなものを付加して、例えば外国人の訓練や障害者の受け入れ、高齢者、女性の活躍推進といったものを新たに訓練の中に付加して施設整備をするなど具体的に議論していく時期に、金沢校を見る限りは思う。

【普赤委員】

- ・離職者の委託訓練について、定員1,735と全体の半分程度が離職者の委託訓練コースということだと思うが、具体的にどんなことをされているのか。

【土岐課長】

- ・産業技術専門校の大きな場所を使わずに訓練できるような、例えばエクセル、ワードといった事務的な訓練や調理系の技能を習う訓練、介護の訓練などを民間の訓練会社に委託して実施している。

【普赤委員】

- ・委託訓練以外の新卒者の訓練など、産業技術専門校でやっている訓練は民間の受皿と
いうのはあるのか。

【土岐課長】

- ・基本的には、自動車専門のK i s tさん以外はないという認識でいる。

【普赤委員】

- ・民間の訓練できる専修学校とか専門学校というところには、今産業技術専門校がやって
いる科目の受皿はないという考えでよいか。

【土岐課長】

- ・おおむねおっしゃるとおり。基本的には民間でできない重厚長大というか、機械や設備
が必要なものに関しては産業技術専門校で訓練している。オフィスワークやプログラミ
ングといったものについては、民間でできるところがたくさんあるので委託している。
能登校には、情報ビジネスやオフィスワークの訓練科があるが、能登にはなかなか民間
事業者がいらないというような状況もあり、一部そういった訓練ニーズの受皿となってい
るといふところもある。

【普赤委員】

- ・民間と公との役割分担というのをしなければならないし、ポリテクセンターと産業技
術専門校との役割分担というのも当然整備する必要があると思う。その中でもう一つ
の切り口は、在職者、新卒者、離職者と誰に対してどのような整備をするかというこ
ともとても大事な視点だと思う。特に今は産業界として求めているのは、人手不足と
いうことで新卒者の獲得には注目をしているが、併せて在職者のスキルアップについ
ても大きな課題だと思っているので、在職者などに対する訓練というものはさらに充
実する必要があると思っている。離職者に対するものについては、基本的に再就職を
促進するためという意味だと思うので、これは雇用保険とかいろいろ絡んでくる話で
しょうし、訓練については基本的に授業料なしという無料のサービス提供ということ
なので、その中でどういうことを担っているのかということももう1回整理する必要
があると思う。
- ・老朽化については、何をするか整理の上で、存続すべきものは速やかに改築するとい

うことでしょうし、命を守る対策はちゅうちょすることなく行うというのは、県民共通の理解だと思うのでしっかりやっていただきたいと思う。

【武田委員】

- ・委託訓練や在職者訓練の充足率についてはどうか。在職者訓練の訓練内容とそれ以外の、新卒、離職に対する訓練内容というのはかなり違うものなのか教えてほしい。
- ・外国人労働者が増えていくというのは時代の趨勢でもあり、地域にちゃんとなじんでもらう環境づくりや、仕事に定着するためにも語学コース的なものも必須ではないかなと思うが、どんな形で対応されているのか。
- ・女性や高齢者といった多様な対象に対するメニューの想定について、特に能登地域ですと移住者向け訓練というのも案外ニーズがあるような気がする。能登地域の移住者というと、農業とか漁業とか林業とかそうした分野のニーズがあるだろうと思うが、例えば食品加工、水産加工など、地域のニーズに応じたメニューというのがあるといいのではないか。

【土岐課長】

- ・委託訓練は、コースごとに2か月、3か月と順繰りに輻輳的に実施しているので、この年度は幾らですというのはなかなか出しにくいですが、コースごとの入校率を足し合わせると5割、6割程度で、就職率は7割、8割程度の水準。
- ・在職者訓練のほうは、在職したまま短期間で学んでいただく形なので、就職率の値はない。内容については、基礎レベル・中堅レベルの内容を2日～1週間程度で学べるようなメニューを揃っている。
- ・多様な対象に対するメニューや移住者向けのメニューについては、現実的にあり得るかということを考えていきたいと思う。

【事務局（斎藤校長）】

- ・金沢校では昨年、46コースの在職者訓練があり、基礎レベル、基本的な機械系、電気・電子系、IT系、管理系。例えば機械系だと機械製図、旋盤加工、熱処理、機械検査、電気・電子系だとシーケンス制御、PLC制御、例えばIT系であれば機械CAD、画像処理、建築CAD、管理系ならば品質管理、現場リーダー養成、またリスクマネ

ジメントなども2日、3日のコースで在職者セミナーやらせていただいているところで、延べの会社数で164社ご参加いただいている。県内中小企業の新卒社員のまさに指導の場として、中小企業はなかなか自社のほうで教育投資が難しいところもあるとお聞きしており、私どものところで基本的なものを学んでいただくという例が多いと聞いている。また、昨年の修了生に関しましては258名、対前年度54%増になっており、人手不足ということで、昨年度、多くの方を採用されて、中小企業等が教育研修の場としてご利用いただいているというような結果が現れたのかなと分析している。

【廣田委員】

- ・外国人労働者の件に関して、言葉の面で日本で生活する上での困難を克服するために、石川県立夜間中学が2年後に開設するというので、金沢校については連携を進めていただければ思う。

【事務局（斎藤校長）】

- ・職業能力開発校における外国人受入れに関しては、昨年度、厚生労働省のから一定の要件を満たす研修の在留資格を付与される方に訓練してくださいということで、全国の訓練校が今試行錯誤しているというふうに校長会でお聞きしているところ。金沢校の受入れとしては、過去に在留資格をお持ちになられた方の訓練実績があると指導員から報告を受けている。今後、この在留資格を持った方のみではなく、技能研修生の訓練というのも当然考えていかなければいけないということではほかの県もいろいろ考えられているというのが現状であるかと思っている。

【古口委員】

- ・職業訓練のターゲットは新卒、離職、在職と3つ分かれており、ハローワーク、労働局が特に関わっているのがこの離職者訓練。離職者がハローワークに来て職業訓練を受けて就職する場合に、就職先というものがまず一つ重要になってくると思う。その中で、地域の就職先のニーズに合った訓練になっているかどうか重要だと思っている。今はどこでも人手不足の状況で、特に6月の有効求人倍率見ると、建築、土木においては、建築・土木・測量の技術者は有効求人倍率7.06であったり、建設の躯体工事の従事者は10倍を超える11.8ということで、離職者訓練においても本来こういった

建設、土木といった人手不足を補う職業訓練をマッチできればよいと思う。まさしく今回の本題である施設が整っていないと訓練が充実したものにもならないし、人手不足も埋められていかないと思うので、施設整備については国が一部補助できる場所もあるので、ご議論いただいた中で国としてもそういった施設なり、あとはハローワークとしてもマッチングがうまくいくように我々としてもちょっと頑張らせていただきたいということをお話しするとともに、先ほど言ったように、やはり人手不足分野が結構多いので、そういったところを見越したコース設定であったり、運営というものも一つ重要じゃないかと思う。

【林委員】

- ・他県の例を知りたいので、調査等していただいて資料等にしていいただければと思う。
- ・過去に観光に関する訓練科を設置している訓練校があると聞いた。育児や介護などで決められた訓練カリキュラムに参加して全うすることが難しい方に向けてのカリキュラムの組み方も必要だと思うので、他県の事例や企業側のニーズの把握をしていただいて、資料でお示しいただければ議論できるのではないかと思う。外国人の方や誰かをケアしなければならない立場の人などの訓練に行きたい側の人のニーズに合った訓練ができる柔軟なシステムづくりができるとういと思う。

【山本委員】

- ・元高校の教員だったのですが、産業技術専門校に七尾校の自動車整備科や金沢校の総合建築科、メカトロニクス科も全てのところに生徒がお世話になった。総合学科の生徒数は少なく、例えば北陵高校や七尾東雲高校では工業の選択を取っている生徒以外の生徒が多く、普通高校の生徒は就職先になかなかすぐ飛び込めないというような生徒が多いので、そういうときにこういうワンクッション、専門科を経て就職するというのですごい助かったなというのがある。
- ・全体像を見て、最初に4校はこのまま必要なのではないかというような話があったが、皆さんもそれを是として話をされてるので、私も結論的には4校必要なかなと思っている。全体像も新卒者対応、離職者対応、在職者対応として本当によく練られていると思う。国設置のポリテクセンターや野々市の障害者能力開発校との関係を考えると、このままやっていくしかないのではないかと思う。ただ、この後、人口減や高校

再編もまだ進んでいくのではないかと思っていることから、高校再編が進むと工業系の学科もまた減ってくることになると思う。能登地区はまたさらに人口減少となるので、能登は本当に残さないといけないのかといったこともまた考慮に出てくるのかもしれないと思う。特に金沢は能登と比べ人口減が緩やかだろうと思うので、金沢校は例えば建て替える方向でもいいかなと思うが、ほかの校も本当に全て建て替えるのか、それとも耐震で行くのかということ、それも3校とも近い年度で老朽化しているので、よく考えないと進められないんじゃないかと思う。鉄筋は50年というような耐用年数だと思っていたので、もう60年経過しているというのは本当に驚きの世界。高校、小中と耐震工事が10年、20年ほど前に完了しており、これはほっておかれたんだとすごく残念。それと、アスベストが校舎に含まれていないのかなということも心配なので、調査かけられたらいいかなと思う。

【事務局（吉村主幹）】

- ・委託訓練については、今回の施設整備そのものと直接関係がないということで若干説明を省略しているが、国からの委託を受けて県から民間企業に委託訓練を実施している。その中で、おっしゃったような観光ビジネスや働き方の多様性についても、短期間コースであったり、育児などをしながら通えるような、なるべく時間が短いコースがある。通えない方のためにeラーニングでリモートでできるようなコースも実施しており、事業者のニーズや訓練実績も踏まえて調整を図っており、なるべく多様なニーズに対応するようにしている。

【木綿会長】

- ・委員の皆様の貴重なご意見を踏まえ、答申素案の作成を進めてまいりたいと思う。それでは、本日の審議事項は終了したので、これで審議会を終了する。